

2019.8.28 Wed. — 11.11 Mon.

国立新美術館
企画展示室 1E [東京・六本木]

The National Art Center, Tokyo
Special Exhibition Gallery 1E

休館日
毎週火曜日
ただし、10月22日[火・祝]は開館、10月23日[水]は休館

開館時間
10:00—18:00
毎週金・土曜日は、8・9月は21:00まで、10・11月は20:00まで
入場は閉館の30分前まで

主催
国立新美術館

Closed
Tuesdays
Open on October 22[Tue.] and closed on
October 23[Wed.] instead

Opening hours
10:00—18:00 | Last admission 30 minutes before closing
10:00—21:00 on Fridays and Saturdays in
August and September;
10:00—20:00 on Fridays and Saturdays in
October and November

Organized by
The National Art Center, Tokyo

小林エリカ
《わたしのトーチ》
2019年
Cプリント
54.9×36.7cm(各、47点組)
作家蔵

© Erika Kobayashi
Courtesy of
Yutaka Kikunake Gallery
撮影 | 野川かほね

現代
美術に
潜む
文学

Literature in Japanese Contemporary Art

話して
誰の
物語は
誰の
物語は
誰の
物語は

北島敬三
Keizo Kitajima

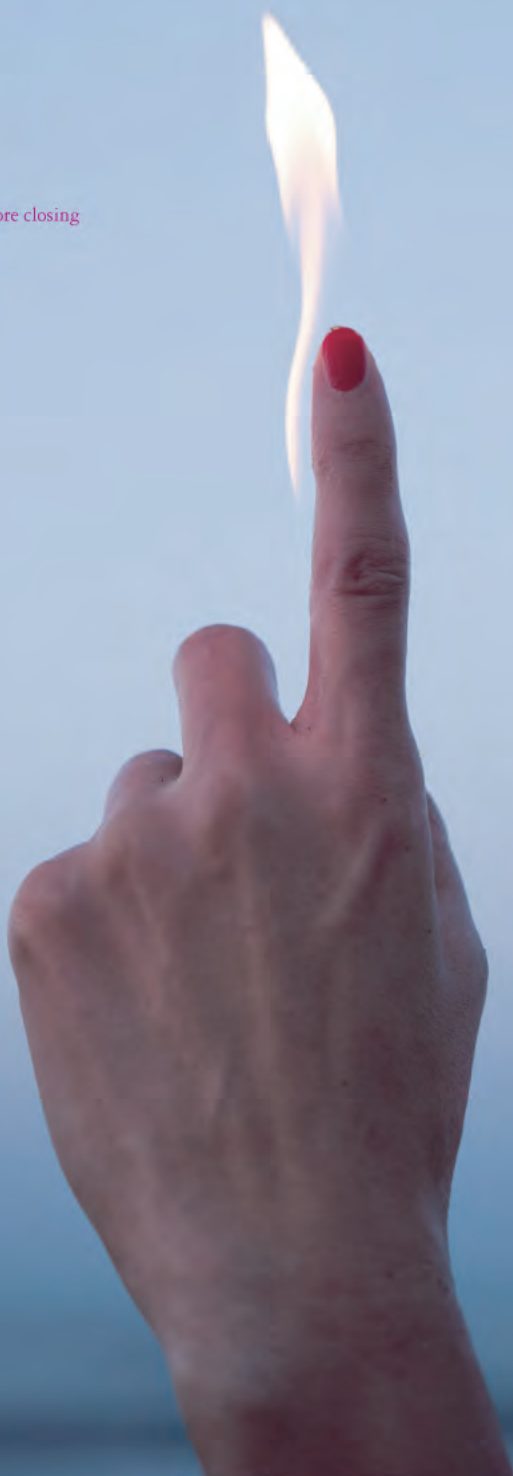
小林エリカ
Erika Kobayashi

ミヤギフトシ
Futoshi Miyagi

田村友一郎
Yuichiro Tamura

豊嶋康子
Yasuko Toyoshima

山城知佳子
Chikako Yamashiro



展覧会概要

国内外で活躍する日本の現代美術家6名によるグループ展を開催いたします。本展に参加する6名の作家は1950年代から1980年代生まれまでと幅広く、表現方法も映像や写真を用いたインスタレーションをはじめとして多岐にわたります。これら作家に共通するのは、作品のうちに文学の要素が色濃く反映されていることです。

古代ローマの詩人ホラティウスが『詩論』で記した「詩は絵のごとく」という一節は、詩と絵画という芸術ジャンルに密接な関係を認める拠り所として頻繁に援用されてきました。以来、詩や文学のような言語芸術と、絵画や彫刻のような視覚芸術との類縁関係を巡る議論は、さまざまな時代と場所で繰り返し広げられてきました。

展覧会タイトルが示唆するように、本展では文学をテーマに掲げています。ですが、ここでの文学は、一般に芸術ジャンル上で分類される文学、つまり書物の形態をとる文学作品だけを指すわけではありません。現代美術において、文学はこうした芸術ジャンルに基づく区別とは違ったかたちで表れているように思われます。日本の現代美術における文学のさまざまな表れ方を体験していただければ幸いです。

出品作家

北島敬三
Keizo Kitajima

1954年長野県生まれ、東京都在住。 | 1975年に「ワークショップ写真学校」森山大道教室に参加して以降、写真家として活動を始める。同年に訪れた沖縄のコザで撮影されたスナップショットは、後に東京、ニューヨーク、東欧、ソ連においても行われるシリーズへと展開される。1992年からは白い衣装を身に纏った人物を定点観測するかのように撮影する「PORTRAITS」のシリーズを開始、今日まで継続されている。また2014年からは、日本各地を撮影した風景写真のシリーズ「UNTITLED RECORDS」の制作を行う。1983年第8回木村伊兵衛写真賞を受賞。写真家が共同運営する新宿の「photographers' gallery」(2001年設立)で定期的に作品を発表している。2009年に東京都写真美術館で個展「北島敬三 1975-1991 コザ/東京/ニューヨーク/東欧/ソ連」を開催。

小林エリカ
Erika Kobayashi

1978年東京都生まれ、同地在住。 | 目に見えない物、時間や歴史、家族や記憶をモチーフとして作品を手掛ける。著作には、小説『マダム・キュリーと朝食を』(集英社、2014、第27回三島由紀夫賞候補と第151回芥川龍之介賞候補にノミネート)、放射能の科学史を巡るマンガ『光の子ども1, 2』(ワトルモア、2013、2016)、などがある。近年では映像、ドローイング、テキストを交えたインスタレーションも多数発表している。近年の展覧会に、個展「野鳥の森1F」(Yutaka Kikutake Gallery、東京、2019)、「Trinity ートリニティー」(軽井沢ニューアートミュージアム、長野、2017)、グループ展「Harsh Astral. The Radiants II」(Galerie Francesca Pia、チューリヒ、2018 | Halle für Kunst、リュネブルク、2018)、「六本木クロッシング 2016 展: 僕の身体、あなたの声」(森美術館、東京、2016)など。

ミヤギフトシ
Futoshi Miyagi

1981年沖縄県生まれ、東京都在住。 | 映像、写真、オブジェクト、テキストなどを用いて、社会政治的事象、とりわけセクシュアリティとマイノリティの問題を俎上に載せた作品を手掛ける。沖縄で沖縄人男性とアメリカ人男性が恋に落ちることは可能か、という問いとともに2012年から始まった現在進行中のプロジェクト「American Boyfriend」は、写真、映像、テキスト、印刷物などによる一連の作品とブログによって構成されるもの。著書に小説『ディスタント』(河出書房新社、2019)がある。2019年第44回木村伊兵衛写真賞にノミネート。近年の展覧会に、個展「いなくなってしまう人たちのこと/The Dreams That Have Faded」(CAI02、北海道、2018)、グループ展「小さいながらもたしかなこと 日本の新進作家 vol.15」(東京都写真美術館、東京、2018-19)など。

田村友一郎
Yuichiro Tamura

1977年富山県生まれ、京都府在住。 | 既存のイメージやオブジェクトを起点にしたインスタレーションやパフォーマンスを手掛ける。従来の美術の領域にとらわれない独自の省察の形式を用いて、特権的な現代美術の観客へのメッセージを意図するだけでなく、観客とのあいだに特異なコミュニケーションをもたらす。土地固有の歴史的な主題から身近な大衆の主題まで着想源は幅広く、現実と虚構を交差させつつ多層的な物語を構築する。近年の展覧会に、個展「叫び声/Hell Scream」(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都、2018)、「G」(Yuka Tsuruno Gallery、東京、2018)、グループ展「美術館の七燈」(広島市現代美術館、広島、2019)、「わたしはどこにいる? 道標をめぐるアートとデザイン」(富山県美術館、富山、2019)、「六本木クロッシング 2019 展: つないでみる」(森美術館、東京、2019)など。

出品作家

豊嶋康子
Yasuko Toyoshima

1967年埼玉県生まれ、同地在住。 | ソロバン、サイコロ、安全ピンなどの既製品、あるいは鉛筆、油絵具、木枠など美術に馴染みのある物質など幅広い素材に手を加え、これら事物の中に複数の見え方が表出する作品を手掛けている。社会の制度における人間の思考モデルを抽出し、そのモデルに構造的に対応する体系を作品のうちで構築する。その一方で、株式の購入や銀行口座の開設を繰り返し行い、名義人である作家の主体性を個人的なものから集合的なものへと変容させ、日常生活において固定された行為と共有された役割の既成関係を問い直す一連のプロジェクトも行っている。近年の展覧会に、個展「ステンレス鋼」(M画廊、栃木、2018)、グループ展「メルド彫刻の先の先」(Maki Fine Arts、東京、2018)、「世界に対する知と信」(駒込倉庫、東京、2018)など。

山城知佳子
Chikako Yamashiro

1976年沖縄県生まれ、同地在住。 | 写真、映像、パフォーマンス、インスタレーションによって沖縄における米軍基地や戦争の問題を掘り下げ、接触と分離、継承と断絶、中心と周縁、生と死などの概念の境界を問い直してきた。近年ではそれら問題を沖縄だけでなく世界中に遍在する普遍的な歴史の問題とみなし、史実や伝承されてきた物語を引用した作品を手掛けている。近年の展覧会に「KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2018」(京都芸術センター、京都、2018)、「Asia Pacific Breweries Foundation Signature Art Prize 2018」(シンガポール国立博物館、シンガポール、2018)、「From Generation to Generation: Inherited Memory and Contemporary Art」(ユダヤ現代美術館、サンフランシスコ、2016-17)など。第64回オーバーハウゼン国際短編映画祭ゾータ賞(2018)、Asian Art Award 2017 supported by Warehouse TERRADA大賞(2017)。

Keizo Kitajima
北島敬三



01

北島敬三
《ツィルカール村 アルメニア共和国》
（「USSR 1991」シリーズより）
1991/2019年
顔料印刷
66.0×93.0cm
作家蔵
©KITAJIMA KEIZO



02

北島敬三
《飯館村》
（「UNTITLED RECORDS」シリーズより）
2011/2019年
顔料印刷
83.0×103.7cm
作家蔵
©KITAJIMA KEIZO

Erika Kobayashi
小林エリカ



03

小林エリカ
《わたしのトーチ》
2019年
Cプリント
54.9×36.7cm（各、47点組）
作家蔵
©Erika Kobayashi
Courtesy of Yutaka Kikutake Gallery
撮影 | 野川かさね



04

小林エリカ
《ドル》
2017年
ウランガラス、鏡、紫外線ランプ
61.0×41.0×7.5 φ70cm
個人蔵
協力：妖精の森ガラス美術館
© Erika Kobayashi
Courtesy of Yutaka Kikutake Gallery

Futoshi Miyagi
ミヤギフトシ

05

ミヤギフトシ
《A Lamp》(「物語るには明るい部屋が必要で」より)
2019年
デジタルC.プリント
作家蔵
©Futoshi Miyagi



06

ミヤギフトシ
《From the Palace on the Hill #2》(「物語るには明るい部屋が必要で」より)
2019年
デジタルC.プリント
作家蔵
©Futoshi Miyagi

Yuichiro Tamura
田村友一郎

07

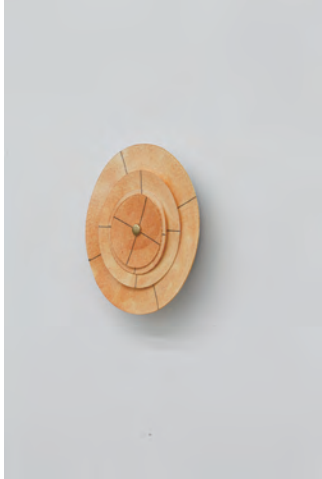
田村友一郎
《マダガスカル石》
2017年
サイズ可変
Yuka Tsuruno Gallery 蔵
©Yuichiro Tamura
Courtesy of Yuka Tsuruno Gallery



08

田村友一郎
《玉蟲に見る夢》
2017年
サイズ可変
Yuka Tsuruno Gallery 蔵
©Yuichiro Tamura
Courtesy of Yuka Tsuruno Gallery

豊嶋康子
Yasuko Toyoshima



09

豊嶋康子
《ズレ》
2018年
紙、割りピン、アクリル絵具、ボールペン
φ11.5cm
作家蔵
撮影 | 木奥恵三



10

豊嶋康子
《正方形余白手裏剣》
2018年
シナベニヤ、リンシードオイル、油絵具
91.0×91.0×2.7cm
作家蔵

山城知佳子
Chikako Yamashiro



11

山城知佳子
《チンピン・ウェスタン『家族の表象』》
2019年
4KHD ヴィデオ、カラー、サウンド
作家蔵
©Chikako Yamashiro
Courtesy of Yumiko Chiba Associates



12

山城知佳子
《チンピン・ウェスタン『家族の表象』》
2019年
4KHD ヴィデオ、カラー、サウンド
作家蔵
©Chikako Yamashiro
Courtesy of Yumiko Chiba Associates

開催概要

展覧会名
話しているのは誰? 現代美術に潜む文学

会期
2019年8月28日[水]—11月11日[月]

休館日
毎週火曜日
ただし、10月22日[火・祝]は開館、10月23日[水]は休館

開館時間
10:00—18:00
毎週金・土曜日は、8・9月は21:00まで、10・11月は20:00まで
○入場は閉館の30分前まで

観覧料(税込)
当日 | 一般1,000円 大学生500円
前売・団体 | 一般800円 大学生300円

- 2019年11月3日[日・祝]は「文化の日」につき、入場無料。
- 高校生、18歳未満の方(学生証または年齢のわかるものが必要)は入場無料。
- 障害者手帳をご持参の方(付添の方1名を含む)は入場無料。
- 前売券は2019年6月28日[金]—8月27日[火]までの販売。
- チケット取扱い: 国立新美術館(開館日のみ)、オンラインチケット(イ・ティックス)、チケットぴあ(PCコード: 769-757) ※手数料がかかります場合があります。
- 団体券は国立新美術館でのみ販売(団体料金の適用は20名以上)。

展覧会に関するお問合せ
03-5777-8600 (ハローダイヤル)

国立新美術館
〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2
美術館ホームページ | <http://www.nact.jp>
Twitter | @NACT_PR
Facebook | @nact.jp
Instagram | @thenationalartcentertokyo

関連イベント
詳細が決まり次第ご案内いたします。
最新情報については、
国立新美術館ホームページをご覧ください。

同時開催の展覧会
「クリスチャン・ボルタンスキー — Lifetime」
会期 | 2019年6月12日[水]—9月2日[月]
会場 | 国立新美術館 企画展示室2E [東京・六本木]
「カルティエ、時の結晶」
会期 | 2019年10月2日[水]—12月16日[月]
会場 | 国立新美術館 企画展示室2E [東京・六本木]

報道関係のお問い合わせ
国立新美術館 広報・国際室
〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2
TEL | 03-6812-9925 (平日10:00-17:00)
FAX | 03-3405-2532
E-MAIL | pr@nact.jp

会場
国立新美術館 企画展示室1E [東京・六本木]

主催
国立新美術館

- 会期中に当館で開催中の他の企画展および公募展のチケット、またはサントリー美術館および森美術館(あとり割対象)で開催中の展覧会チケット(半券可)を提示された方は、団体料金が適用されます。
- 65歳以上の方(年齢のわかるものが必要)は、会期中に当館で開催中の公募展チケット(半券可)の提示で大学生団体料金が適用されます。
- 国立美術館キャンパスメンバーズ加盟の大学等の学生・教職員は本展覧会を団体料金でご覧いただけます。

アクセス
東京メトロ千代田線 乃木坂駅
青山霊園方面改札 6出口(美術館直結)
東京メトロ日比谷線・都営地下鉄大江戸線 六本木駅
7出口から徒歩約4分
○美術館に駐車場はございません。

